



星空を眺める

三菱UFJモルガン・スタンレー証券
取締役社長 兼 最高経営責任者

荒木 三郎

星空に目覚めたのは、アポロ11号が人類初の月面着陸に成功した小学校6年生の時でした。果てしない謎に満ちた宇宙に挑戦する姿を見て、いつかは自分も天文学者か宇宙飛行士になりたいと思ったものです。丁度その頃、読書感想文のコンクールで入賞し、賞品として口径5センチの屈折式天体望遠鏡を頂きました。それからというもの、太陽の黒点、月面、土星、木星などの観察に明け暮れました。初めて土星の環やガリレオが発見した木星の4つの衛星を見た時の興奮は今でも覚えています。当時の住まいは長崎県の片田舎でした。都会とは異なり星降るような夜空を眺めながら、悠久無限の宇宙に思いを馳せる毎日でした。

ところが高校進学後、受験勉強で忙しくなり、次第に天体観測する機会が減っていきました。決定的だったのは大学進学で東京住まいとなった事です。夜空を見上げても星は殆ど見えません。星空への興味は急速に薄れていきました。

転機が訪れたのは40年以上経った昨年1月です。たまたま高知県に出張する機会があり、夜中に車を飛ばして四万天文台という小さな天文台を訪れました。当地は県内で唯一「星空の街」に認定されており、口径36センチの反射式望遠鏡で好きな天体の写真を撮影することができます。お陰様でその日は雲一つない夜空でした。月面、火

星、オリオン大星雲、アンドロメダ星雲、すばる、ぎょしゃ座の散開星団等を撮影するうちに、子供の頃に抱いていた星空への憧れが蘇ってきました。

こうなったら居ても立ってもいられません。少々値は張りましたが最新式の8.5センチ屈折式望遠鏡を購入し、早速我が家のベランダから天体観測を始めました。その頃、オリオン座のベテルギウスが星としての寿命が尽き、超新星爆発を起こすかもしれないというニュースが流れてきました。地球から640光年離れているベテルギウスが爆発したら、それは今から640年前、1380年の時ということになります。日本は室町時代です。室町時代に死を迎えた星の光が640年かけて地球に届くことを想像するだけでわくわくします。目下、抱いている夢は、「いつの日か満天の星が見える所に自前の天文台を作り、大きな望遠鏡で思う存分星空を楽しみたい」という事です。そういう日が来る事を心待ちにしています。

